

## 令和3年度第3回広島市都市デザインアドバイザー会議 会議要旨

### 1 開催日時

令和4年1月6日（木）14:30～17:00

### 2 開催場所

広島市役所本庁舎 1 4階 7会議室

### 3 出席者

出席委員（8名）

田中 貴宏、角倉 英明、今川 朱美、高田 由美、  
柏尾 浩一郎、吉田 幸弘、藤井 堅、小菅 加代子、

### 4 議事

- (1) 中筋温品線太田川橋りょう（仮称）整備事業について（2回目会議）
  - (2) 広島市医師会運営・安芸市民病院病棟等建替え工事について（2回目会議）
- その他 広島特別支援学校増築について（報告）

### 5 公開・非公開の別

公開

### 6 傍聴者

一般傍聴者 0名  
報道関係傍聴者 2社

### 7 会議資料

会議次第、委員名簿、広島市側出席者名簿、配席図、議事資料、その他資料

### 8 会議要旨

- (1) 議事 中筋温品線太田川橋りょう（仮称）整備事業について  
議事内容の説明を行い、デザイン上の配慮事項に関する御提案をいただいた。  
今後の検討事項は次のとおり。

ア 最終形（ダブルデッキとなった際）のイメージについて

- ・第1期工事及び第2期工事の完成形（最終形）のイメージ（照明を含む）をCG等で作成、検討する。
- ・橋台及び桁の形状については第2期工事の構造も考慮し、景観配慮するよう検討する。

イ 桁・防護柵の色彩及びデザインについて

- ・第1期工事における桁の色については、塗装する場合と対候性鋼材に塗装しない場合の2案について検討する。
- ・塗装をする場合は景観と同化する色彩で、今回の検討色である第1案（グリーン系）、第3案（イエロー系）の他に、サックスブルー（マンセル値 10B 6 / 4）を検討する。
- ・景観の観点から張り出し部を大きくする方法を検討する。
- ・防護柵の形状と色彩について検討する。色彩については道路付属物のクスノキ

ブラウンと決めてしまうのではなく、桁の色に合わせた色彩も検討する。形状については、地域性のある装飾や最終形のデザインとのマッチングを含めて検討する。

ウ 鋼材の表面仕上げについて

- ・ 錆安定化処理と耐候性塗料はどちらかのみではないかという意見があったため、LCC（ライフサイクルコスト）の確認を含めた再検討を行う。

エ 自転車への減速を促す路面標示について

- ・ 十分な注意喚起となるよう、設置方法や設置カ所等を検討する。

(2) 議事 市医師会運営・安芸市民病院病棟等建替え工事について

議事内容の説明を行い、デザイン上の配慮事項に関する御提案をいただいた。今後の検討事項は次のとおり。

ア 壁面サインのデザイン（形・色・照明）について

- ・ 南立面の縦書きの壁面サインの位置について、右壁面への移動を検討する。
- ・ 色を有彩色とする場合は、色彩に意味が生じてしまうため注意する。
- ・ 色を黒とした場合、サインの影により文字が太くなり読みにくくなるため注意する。
- ・ 照明についても検討する。

イ 外装材について

- ・ 外装材の材料・表面仕上げ・色彩について検討する。その際、汚れにくさ等も考慮する。

ウ 動線や配置について

- ・ 不審者対策として、セキュリティの観点から動線を再度検討する。

エ 植栽について

- ・ 光庭に植栽やベンチを設けるか等、光庭の使い方を再度検討する。
- ・ 敷地内の樹種等について検討する。

(3) その他報告 広島特別支援学校増築工事について

報告内容の説明を行った。質問や意見はなし。

**【会議概要】**

○清水都市デザイン担当課長

（開会挨拶、配布資料確認、出席者照会及び議事説明）

○田中座長

それでは、本日の議事(1)「中筋温品線太田川橋りょう（仮称）整備事業について（2回目会議）」についての説明をお願いします。

○佐々木街路課長

（議事(1)「中筋温品線太田川橋りょう（仮称）整備事業について」の説明）

○田中座長

ただいまの説明に対して、設計方針やデザイン上の配慮事項に関する御提案や御質問等

あればお願いしたい。

○藤井委員

2ページ目に将来的にはダブルデッキ構造とするとあり、9ページの図、私はこの検討に関わっていたが、このローゼの案は消えたと解釈していた、間違いないか。

○佐々木街路課長

完成形を示す図面がなかったので、この図を添付しているが、これで決定ということではない。

○藤井委員

9ページ目の案を検討したときは、ダブルデッキにするということで、景観に配慮しアーチを提案した。今の案だと、第一段階として箱桁橋にし、第二段階でダブルデッキに拡張するのであろうが、9ページのアーチ構造というのは恐らく難しいと思う。よって、白紙に戻してもう一度検討してはどうか。

その際は、2ページ目の二期目の施工が実現可能な橋りょう構造の形式について、もっと詰めるべき。当然下部工は上の橋が来ることを考えた上で設計する必要があり、デザインも考える必要がある。

それら構造及びデザインの検討の必要性からも、上の橋の完成形の構造デザインを先に押さえておいて、それに対応できる下部工を造っておく必要があると思うがどうか。

○設計業務委託者（安富主任）

本橋梁の将来形は二層構造だが、今回は先に、下の桁橋を造るという計画であり、二層目は最初の桁橋の上にかぶせるように造る。そのためには、当然、二層目を支持するアーチリブ、支柱、それを支える橋脚の部分が必要になるが、それについては、将来二層目を造るときに、橋脚をさらに大きく拡幅するよう考えている。

○藤井委員

上のデッキは幅員が広がるのか、狭まるのか。

○設計業務委託者（安富主任）

道路の路面自体の幅員は、上下でさほど変わらないが、当然、上層の路面を支えるためのアーチリブの部分は広がる。最初に造った橋脚のままでは、幅が狭くなるので、二層目を造る際は、アーチリブが支えられるような幅に橋脚を拡幅することを考えている。

○藤井委員

今の橋脚の上にアーチがくるということは、下部工については、上にアーチが載った最終形での設計が必要ということか。

○設計業務委託者（安富主任）

そうである。

○藤井委員

9ページ目の図は、アーチのスペンが変わっている。これは、たしか等径間でアーチを架けるのではなくて、少し差をつけて、リズム感をつけようというアイデアで、長径間と短径間とを分けていた。結局、河川上の制約から橋脚が立てられないという話になり、一つの長スペンと三径間のアーチという、バランスドアーチにしたと記憶している。

この形にするのであれば、当然ピア（橋脚）の大きさや橋台も変わってくるので、その点は十分検討した上で、景観的におかしくない形にしていきたい。

例えば、今の状態だと下と上は全く別の構造になると思うが、それを別々に造ると景観上よくない構造になると思うので、十分検討をしていただきたい。

○設計業務委託者（安富主任）

今後検討する。

○藤井委員

2 ページ目の左の一番下について、鋼材は、L C C（ライフサイクルコスト）を考慮し耐候性鋼材とすると記載があるが、耐候性鋼材の上にペンキを塗るということか。

○設計業務委託者（安富主任）

そのとおりである。さび安定化処理に塗料を添加し、さび安定化処理が着色されたものとしている。

○藤井委員

さび安定化処理で着色するのは構わないが、そうすると、緻密さびが出た段階で、もう塗り替えはしないという考えでよいか。

○設計業務委託者（安富主任）

さび安定化処理にも耐久性の目安があるので、耐久年数が過ぎれば再度着色する予定である。

○藤井委員

それだと、L C Cとは関係なくなるのではないか。耐候性鋼材は、緻密さびを出し、そのさびが大気を遮断することでさびの進行を防ぐものである。ペンキを塗ればペンキが大気を遮断するので、地金は実際にはさびるが、さびないという考えである。安定化処理をする本来の目的は、緻密さびを発生しやすくするためなので、何年か後に、またそれを塗るといえるのはおかしいと感じる。

また、ここの架設現場の立地条件を考えると、海岸からかなり離れているので、耐候性鋼材を使うのであれば、裸仕様でいいのではないか。もしペンキを塗るのであれば、耐候性鋼材を使わなくても十分やれると思うが、どうか。

○設計業務委託者（安富主任）

一般鋼材仕様に塗装でいいということか。

○藤井委員

そうである。また何年か後にペンキを塗り替えるのであれば、きっと耐候性鋼材を使わなくてもよく、安価にできるのでは。

○設計業務委託者（安富主任）

耐候性仕様に安定化処理し着色を添加するという案と、一般鋼材仕様に特殊塗装した場合のL C Cを比較した結果、トータルで安価な方を選択した。

○藤井委員

そのシミュレーションをしたということか。

○設計業務委託者（安富主任）

そうである。

○藤井委員

要するに、ペンキの塗り変え間隔が長いため、L C Cが低いと判断したということか。

○設計業務委託者（安富主任）

そうである。

○藤井委員

それには少し疑問を感じる。緻密さびが出るということは、地金はさびる。安定化処理剤はさびさせるもの。このグリーン系の色に、浮きさびがある状態となり、あまり景観上よいとは思えない。

なので、どちらかで良いと思う。耐候性鋼材の裸仕様でいけば、緻密さびが出た段階で、

クスノキブラウンぐらいの色になる。高欄も本当は裸仕様でいけばいいと思う。そうすると同じ色で統一された橋りょうができる。これも一つの案である。

なかなか緻密さびが出るということ自体が難しいが、もしそうなれば色を統一できるので、最初から耐候性鋼材を使わないほうがよいと思う。シミュレーションの結果というのは、あくまでもモデルの話である。

また、これだけ陸地部であれば余り塩の影響はない。凍結防止剤の影響はあるが、飛来塩分の影響はかなり低いだらう。

#### ○今川委員

旭橋は耐候性鋼材か。

#### ○藤井委員

旭橋は一般鋼材で、かなり古い。確かSM材、溶接構造用圧延鋼材で、かなりSS材を使っている。旭橋の場合は腐食代として腐食してもいい鋼板を当てている。そこの板がさびていたが今は塗り替えられ、きれいに見えている。構造上問題が出るようなさびではなく、耐荷力は下がらず腐食代がさびているだけの状態であると思う。

国交省は、予算の関係で桁の下を塗っていなかったが、塗るのであれば桁下を塗ってくださいと言って帰った。桁下の方がよくさびる。だから上の路上の方はさびていてもそこまで進まないが、路下の方がむしろ怖い。予算がないのであれば、橋の裏を塗るべきである。

旭橋は潮止の中で、感潮河川であるので、まともに塩の影響はあるだらう。

#### ○藤井委員

9ページ目のアーチの図であるが、私が最初に抱いていたイメージは、これから架けようとする桁橋の補剛桁は、アーチからケーブルで、ニールセン形式で吊るように最初は提案させていただいた。今回は、全く別々になるので必要無いかもしれないが、ケーブルで吊ることで、アーチリブの下側をクリアにしたいというイメージであった。また、上にポストを立てて上のデッキを造るが、構造上大丈夫かという疑問を当時は感じていた。

#### ○今川委員

昔こういうのが、流行っていたのか。

#### ○藤井委員

当時は斜張橋がすごく流行っていた時代であった。何でもかんでも斜張橋をやるというので、スパン長が80メートルでも斜張橋をやると言っていた。これは我々からすると変な話で、80メートルなら桁橋で十分である。斜張橋にするということは、お金がかかる。あの頃、景観を考慮すると3割ぐらい費用がアップしてもいいとか、いろいろ人が言っていたが、どうかと思う。ロングスパンであれば、アーチか斜張橋かというのは、いまだに景観を考えると候補にはなると思う。

#### ○柏尾委員

今の上層橋との関係について、議論になっており、今回、色彩の部分が大きな議題となっているが、やはりこの完成形がどういったものになるのかが、色彩を選定していく場合にも大きな条件になる。

ただ、今回は先に出来上がる下橋について、タイムスケジュール的な問題もあり、色彩を選定していかなければならないという前提で、少し話をさせていただく。

一番大きな塗装された色彩の部分が桁部分になるが、基本的には、上層にこのような構造物が乗るということを前提にすると、色彩の考え方は引き算という考え方になる。引き算というのは、色で存在をアピールすることではなく、色の存在を同化ということ

に使うということである。

今回、提案いただいている3色、グリーン系、オレンジ系、イエロー系がある。どれもいわゆるアースカラーで提案いただいているが、彩度は2ということで、この色相、彩度、明度については、アースカラーとして可能な範疇であると思われる。

ただ、2案のオレンジ系については、色相にもよるが、5 YR という色相は、ピンキッシュな印象を受けるため、景観上は省く必要があるかと思う。グリーンとイエロー系はどちらを選んでも納まりとしてはよいと考える。

また、今回、この下層橋の素材の色彩を選定していく際、まず下に橋脚である大きなコンクリート部分がある。この高水敷を使用する市民も多いということで、高水敷から橋桁を見上げる機会も多いようである。これらのことから、グリーン系、イエロー系という色相に対して、もう一つブルー系の色相が考えられると思う。サックスというブルーの色域がある。ブルーの中でもブルーの爽やかさにグレーを混色することで上品さを加えていくようなサックスという色域があり、この色域が橋脚のコンクリート色とのコンビネーションを考えるとその色域が一つ別案として考えられるのではないか。

これは、コンクリートのグレーと非常に相性がよく、仮に上層橋として鉄鋼の橋がきたとしても、それとのコンビネーションを考えていく際は、グリーン系、イエロー系と比較すると、サックスのブルー系というのが割とよくまとまるのではないか。

また、高水敷から上を見上げる袖から一番よくこの橋りょうが見えるのは、両サイドの道路からの通行になると思う。ここからこの桁の見える方向は水平線・地平線ラインに来るので、空とのコンビネーションも非常によく、上層橋を前提とするのであれば、この色域が一つ考えられるのではないか。

日塗工のサンプルはあるか。

#### ○佐々木街路課長

はい。

#### ○柏尾委員

参考としてで、69-60 でマンセル値が 10B6/4。小さいサンプルで見ているので、見え方の印象はこれというものである。実際に塗色する場合には、チューニングが必要になるため、別途大きな面積での確認が必要である。

このような色であれば、コンクリート及び上層ができた場合であっても、グリーンやイエロー系よりも相性がよいと思う。

#### ○藤井委員

何年か経つと耐候性鋼材でも必ず錆は浮いてくるので、この塗装の中に錆が浮いたような状態となる。何年か経てば右のように白っぽくなり、ペンキも劣化してくるため、どの色を最初に選ぶかは、結構難しいと思う。

耐候性鋼材でうまくいった例は、2号線で宮島に行く途中にずらっとある高架橋であり、そのほとんどは耐候性鋼材である。耐候性鋼材は時間が経つとあの程度の錆に落ち着いてくるはずである。よって、クスノキブラウンと言えればいいのか、上手く錆びれば、近い色になる。上手くいかなかった場合はペンキ塗ることを提案する。

ただ、先ほどの L C C の話で、耐候性鋼材が錆びてペンキを塗り替えることは、恐らく普通の鋼材の錆を落として塗り替えるよりもお金がかかる。耐候性鋼材で出てきた錆は落ちないからである。現在の一般的な考えでは、錆を全部落としてペンキを塗り替える必要があり、落ちない錆を落とすためにはブラストをかけるなど多くの処理が必要で、相当な費用がかかるであろう。

よって耐候性鋼材に色を塗るというのは、余り良いメリットにならないと思う。最初に色を決めて普通鋼材を採用してはどうか。

○今川委員

普通鋼材であれば、腐食代を考える必要があるのか。

○藤井委員

考える必要はない。まともにペンキを塗り替えれば理論上は、永遠にもつというモデルができる。ただ、実際は必ず錆は発生する。

○佐々木街路課長

ブルー系も含めて再度検討させていただく。

○藤井委員

色を先に決めた方が良い。材料は後で良い。

○柏尾委員

走行面・歩行面のファニチャー、柵について、クスノキブラウンを選定されている。これは、上層橋が設置された際、少し違和感があり、コンフリクトを起こしそうな感じもする。この柵や照明灯については、金属の素材色でよいのではないか。

○佐々木街路課長

橋梁上の防護柵について、塗装するのであればクスノキブラウンが指定されているが、金属色のままというのも、取決めの中にあるので、それも含めて検討させていただく。

○吉田委員

今の色の話であるが、やはり柵の色を決定する前に防護柵をクスノキブラウンと決めるのは、少し危険ではないか。単独橋としてのデザインであれば、ここの地域がクスノキブラウンだというのは分かるが、あまりクスノキブラウンにこだわる必要はないのではないか。柵をグリーンと防護柵をクスノキブラウンとする案は、個人的には、マッチングがどうか疑問である。

まずは、柵の色を決定し、防護柵は、柵にマッチングする色を選んだ方が、順序として失敗しないのではないか。

それから、この防護柵の高欄のデザインについて、今は歩車道境界も含めて一番単純でシンプルなデザインとしているが、もう少し地域性を生かした装飾的なものでもよいのではないか。ここは、330メートルと結構長い橋で、歩行者がジョギング等で長い時間ここを歩くことを考えると、何かもう少し変化や遊び、見て楽しいような装飾があってもよいと思う。ただ、それにしても、上にかかる橋のデザインとのマッチングというのは非常に難しいだろう。

○佐々木街路課長

今回のこの防護柵については、一番簡易なものを載せていたので、今後詳細については、詰めていきたい。

○藤井委員

この防護柵という定義は、高欄とは別で、歩車道分離の柵であるか。

この防護柵は、高欄推力を考えると、少し弱いと思うので、高欄がここにある防護柵の代わりをするぐらいの頑丈なものであってよいのではないか。

また、歩道の端は二本のパイプを通してあるが、自転車や歩行者が何か押して壊すことはないため、もっとスレンダーな、華奢な物でよいのではないか。重要なのは防護柵の方である。ガードレールではなく高欄と同じスケールとした方が、歩車道の分離にはよいと思う。歩道から見た感じも、本来の高欄、ここに持ってくると重いように思うので、それ

も含めて御検討いただきたい。

○佐々木街路課長

防護柵についても色と形式。特に歩車道側の防護柵については、強度も含めてしっかり検討していく。

○角倉委員

重なって恐縮であるが、やはり完成形というのは、もう少し示していただきたい。9ページのCGだと、あまり分からない。また、照明のイメージもCGを使えば伝わると思う。仮でもよいので、第一期工事における単独橋の完成形、第一期工事で選定された橋りょうをベースとした第二期の完成イメージのCGを作り、全体の色彩や意匠、照明などをCGとして出すというのは、特にプロジェクトの、プロマネの社会だと結構大事なマネジメントの一つであると思うので、そのCGを作成いただきたい。CGを活用することで、市民の方へも橋の完成形が伝わりやすくなるので、時間と手間をかけることは大変かもしれないが、少し注力いただき、イメージしやすいCGを作成していただきたい。

防止柵や色彩については、今までの先生方と同じ意見である。

○藤井委員

6ページの張り出し部について、箱桁が3つあり張り出しが1.7mぐらいである。景観の観点から、橋を強調させない、スリムに見せるという意味では、張り出し部を大きくし主桁を橋の中央に寄せると、外から主桁が見えず、非常にスリムに見える。鶴見橋がその例である。今回も、現在の3ボックスを2ボックスとし、スリムに見せるという手もあるだろう。この変更はかなり大がかりなものであるので、あまり言わないが。

○佐々木街路課長

検討させていただく。

○田中座長

高田委員はいかがか。

○高田委員

カラーと高欄のことが気になっていた。その他の意見は特にない。

○今川委員

色について、これまでの意見と同様にファニチャーとの色の関係が気になっていた。

また、橋の色について、幾つもの同じ川に橋が架かっているのに、この橋だけ特別な色でもよいのかと考えさせられた。これについては、他で議論することであるので置いておくが、提案のあった水色系の白っぽい色に同意している。先ほど話にあった旭橋は、最初は、夕暮れの空に馴染むように少し紫がかかったグレーの色を塗ったようだ。

現在、何色に塗り替えられたかは不明であるが、水色系のグレイッシュな白い橋になっている。夕暮れ時に、確かにすごくきれいに見える時間帯がある。それを意識するのであれば、水色がかった白、グレーというのは最適であると話を伺っていて思った。

○藤井委員

今の旭橋は、新しい方なのか。トラスかアーチか。

○今川委員

古い方である。設計された方がそうされたと、手記か何かを読んだ気がする。

○藤井委員

紫が入っているとは思わず、グレーだと思っていた。

○今川委員

トラスのほうは、最初は旧旭橋と同色にしたと聞いたが、塗り替え後の色は、少し違う

色となった気がしている。

○小菅委員

歩道の自転車の減速を促す路面標示例について、ゆっくりというふうに標示がされているが、もちろんこれも一つのやり方ではあるが、これだけでは少し弱いと思う場面が、生活をしていると多々ある。歩行者にとっては歩きやすく、自転車が減速できるような仕掛けが何かあったらよいのではないか。

○佐々木街路課長

この標示は、平和大橋の歩道に設置しているが、これらの橋は今回の橋のほど長くないので、それほど数を設置しているわけではない。設置の仕方も含め、検討していきたい。

○田中座長

各委員の皆様のご意見を伺ったかと思うので、この議事(1)についてまとめさせていただく。

1つ目は、9ページの将来のイメージについて。将来この橋がどうなるのかについて、平成5年度時点のビジョンは出ているが、やはり今日議論があったように、今考えている将来像とは少し違うようであるので、色も含め将来どうなるのか、今この時点でどう考えているのかを残していく必要があるのではないか。その点を少し検討いただきたい。

2つ目は、これは1つ目と関連するが、色について。新たにブルー系の色を提案いただいた。また、防護柵と桁については、将来的なイメージと、そのバランスで決まると思うので、色についても、全体像を含めて検討いただきたい。

3つ目は、デザインについて。防護柵や、橋の張り出しを少し大きくしてはどうかなど、デザインに関する意見をいただいたので、こちらも検討いただきたい。

4つ目は、藤井先生からいただいた耐候性鋼材の件である。これは、LCCを含めて再度検討いただきたい。

最後、自転車の減速の仕掛けについてである。私も、これだけだと少し心配であるので、これについても検討いただきたい。

以上5点かと思うが、いかがか。

○柏尾委員

私が先ほど提案させていただいた色についての補足させていただく。

先ほどの10B6/4についてであるが、実際にこれが橋桁の色となると、もっとトーンダウンするので注意していただきたい。

○田中座長

そちらも踏まえて検討いただきたい。議事(1)については以上である。

○田中座長

それでは、本日の議事(2)「広島市医師会運営・安芸市民病院病棟等建替え工事について(2回目会議)」について、の説明をお願いする。

○橋本施設整備担当課長・設計業務委託者(森下部長)

(議事(2)「広島市医師会運営・安芸市民病院病棟等建替え工事について」の説明)

○田中座長

ただいまの説明に対して、設計方針やデザイン上の配慮事項に関する御提案や御質問等、があればお願いしたい。

○角倉委員

透析エレベーターと透析患者さんの動線について、専用エレベーターで四階まで上がり透析室に行くということだが、図面を見ると、3階から1階も開閉ができるようになって

いる。セキュリティーの問題があるように思うが、何かセキュリティーについて検討事項はあるか。

○設計業務委託者（森下部長）

2階・3階部分は、エレベーターの扉を設けてはいるが、セキュリティーをかけて他の方が入れないようにしている。

1階については、病院側と協議中であるが、透析が終わった後で会計ができるよう、扉を開けられるようにしようと、現在考えている。

○角倉委員

セキュリティーで人の目に触れるということが大事だと思う。人の目に触れる空間の作り方、例えば1階の内視鏡室など、何かその辺りに作っていただきたい。開けられる開口があれば開口を作る、壁にガラス窓などを入れるとよいのではないか。人の目が触れるような環境ができると、それだけでもセキュリティーがかかると思うので、少しその辺りを工夫していただきたい。

なるべく人の目に触れないと、セキュリティー的に全く効かない。透析者の方しか利用はしないと思うが、不審者がそこを通過できてしまえば意味がないので、1階が誰でも通過できるような場であれば、人の目に触れるような室内側の間仕切り壁もしくは内壁に開口を設けることで、なるべく人の目にぱっと触れやすい環境を作ってもらえるとセキュリティーとして効くのではないか。

○設計業務委託者（森下部長）

1階については、放射線科の前の廊下に面しているので、人の目には触れるようになっているが、地階がどうしても人の目が少ない。この部分は、防犯カメラ等併用をして対応することを検討している。

○角倉委員

防犯カメラをつけ、透析者が識別するかどうかではない。要は1階で他に往来できるところに、セキュリティーを設けた方がよいのではないかとということ。4階に上がれば、もうその周辺には透析室しかないので、問題はない。1階のセキュリティーについてクリアできると、かなりセキュリティーが上がるのではないかと感じた。

○設計業務委託者（森下部長）

病院側と打合せさせていただく。

○角倉委員

また、1階の平面図で、居室に名前がついていない部分はどうなっているのか。

○設計業務委託者（森下部長）

主要の部屋のみ記載していた。名前のない居室の用途は倉庫や会議室の予定である。

○柏尾委員

デザイン的な質問をさせて頂く。

既存棟の看板の撤去や、新病棟のアクセントカラーを旧病棟に採用するなど、既存棟と新棟の関連づけが非常に強いものとなっている。

この看板の撤去や、アクセントカラーの旧棟への採用は、本工事で行うのか。

○設計業務委託者（森下部長）

既存棟の看板は、今回の工事と同時期に撤去をする予定である。アクセントカラーなどの既存棟の塗り替えは、既存棟の外壁改修等の時期に合わせての改修となる。今回の新病棟建設時期とはずれる予定であるが、病院側との協議結果によっては、同時期となる可能性もある。

○柏尾委員

5 ページの外壁の色彩、素材及びテクスチャーについて。ジョリパット部分、吹き付けタイル部分、押出成形セメント板、アスロックルーバー部分、このテクスチャーと色彩について現時点で決まっている内容を教えていただきたい。

○設計業務委託者（森下部長）

まだ決定ではないが、会場にサンプルをご用意した。ジョリパット等の少しベージュのところは、表面に凹凸があるような素材感があるものとしたい。この真ん中の白い部分は、先ほどのベージュ部分との対比を強調するため、同じジョリパットのような素材であつても少し艶のある素材としたい。

縦型ルーバーの部分はアスロック等で、押出成形セメント板に吹き付けタイルを塗るような、少し艶のあるイメージのもので考えている。それに対比して、アルミの手すりを設けるというイメージである。

1階部分についても、上部と全体が一つの固まりにならないようにできるだけ分節をするため、下の部分は、コンクリート打ち放としている。

○柏尾委員

新病棟のサインについて、この色彩を外壁色に映える視認性のよいものとするところがあるが、具体的なカラーは決まっていらないのか。

○設計業務委託者（森下部長）

決定していない。外壁は明る目の原色を一つの案として病院側に提示しているため、これに映える色、パースでは濃いグレーとしているが、このようなイメージで考えているが、まだ決定ではない。

○柏尾委員

前回の意見と対応のところ、サインの色は診察券のカラーなどのイメージカラーを参考とするとあるが、診察券のカラーは根拠なしに決まっていたようであるので、参考にする必要はないだろう。今後、コーポレートカラーや病院カラーを決定していく予定もないとのことで、建物との調和の観点でサインの色を選定してはどうか。

今は、グレー系であるが、もし有彩色を選ぶ場合は、その色に意味を持たせてしまうので、そこは注意していただきたい。

○今川委員

透析の方だけ駐車場や入口が違うのは、特別な配慮であるのか。

○設計業務委託者（森下部長）

そうである。現在のコロナウイルス感染が流行していること等を考慮し、他の患者様とは違う専用の入口や動線を設けてほしいという、病院側からの要望があった。

○今川委員

専用の駐車場が8台である。サービスの車もこの駐車場を使うことや、透析室に15のベッドがあることから、透析患者の方はこの駐車場をめったに使うことができないのではないかと。程度の軽い方はバスで来院するとの考えか。

○設計業務委託者（森下部長）

この図面に書いていないが、この配置図、敷地の南側に別の駐車場がある。

○今川委員

一段下のところか。

○設計業務委託者（森下部長）

そうである。ここには、72台分の駐車場があり、病院との協議の中で、この72台の

駐車場も合わせて利用いただくこととしている。

○今川委員

透析であっても、程度の重い方は介助者が必要になると思うが、この入口の近くの駐車場に停めて透析室まで上がった後、介助者は透析中ずっとベッドサイドに座っているのか。待合室などはないのか。

○設計業務委託者（森下部長）

送迎バス等もあると聞いている。頻繁に来院される患者様に対し、病院から送迎バスを出すというサービスをよく行うが、そういった対応も考えている。

○今川委員

個人的に送迎される方や重度の方がこの近くの駐車場を使用し、その他の方は、少し離れたところや送迎バスを使用するという事か。

○設計業務委託者（森下部長）

そうである。

待合室について、待合室は無いが、4階透析室の前に、少し椅子を置くスペースを設けている。そこまで広いスペースではないが、ここで介助者の方が透析中待機できるようになっている。

○今川委員

他の病院では、ロビー近くに介助者が透析中に待機できるスペースが十分あるが、このように出入口を限定されると、ここからその他の場所へ自由に行き来もできないようであるので、透析中は介助者の行き場が無いのではないかと、少し気になった。

重度の透析の方となると、体力もないなど、一般とは別の入口や動線を設けることは非常に配慮が行き届いているとは思う一方、透析中の介助者の待機場所等が気になった。

○橋本施設整備担当課長

この専用エレベーターで1階には降りることが可能で、介助者は1階のロビーや売店を使用できるようになっている。透析患者に付き添い透析室へ行った後は、1階で待機することは可能である。

○今川委員

そうすると、先ほどの話にあった1階の部分の人目とセキュリティーというのが、少し心配である。

○橋本施設整備担当課長

それについては検討させていただく。

また、先ほどの別敷地の駐車場について、透析患者入口の駐車場と同じレベルである。少し距離はあるが、道路を一つ挟んだところであり、この別敷地の駐車場から車椅子等であっても直接病院へ入ることは可能である。

○高田委員

光庭について、天井はトップライトであるのか。

○設計業務委託者（森下部長）

吹き抜けで、外部空間となっている。

○高田委員

屋根はついているか。

○設計業務委託者（森下部長）

ついてない。

○高田委員

ここには、病院内からも行き来できるのか。植栽を設ける予定はあるか。

○設計業務委託者（森下部長）

想定は、まだそこまでしていないが、植栽については、メンテナンスのこと等を病院と打合せが必要であるが、少し眺められるようなエリアにはしたい。

○高田委員

もしここに屋根があるのであれば、テーブルやベンチを設け、来院者や入院患者が使用できる、少し憩える場所がとなればよいと思う。

ジョリパットについて、今のサンプルは艶がないが、艶がないものを採用するのか。

○設計業務委託者（森下部長）

検討中であるが、艶がないほうがいいのか。

○高田委員

吹き付けタイルは艶があるものであるので、ジョリパットは艶がない素材がいいとは思いますが、艶なしだと汚れが気になる。今回は特に庇のない場所で使用するので、汚れが少し気になる。

吹き付けタイルは、一番最後の上塗りによってかなり耐候性が異なるが、いいものを使用して耐候性を出すということか。

○設計業務委託者（森下部長）

これから検討させていただく。ジョリパットになるかは分からないが、このような素材のものは、上に耐候性塗料を塗ることも可能であるので、その辺も含めてまた協議させていただきたい。

○高田委員

西側外構の樹種を選定すると言っていた場所について、幅的には4 mぐらいか。

○設計業務委託者（森下部長）

3～4 m程度であるが、部分的に高低差があり、擁壁が出てくるので、その分だけ部分的に狭くなる場所がある。建物の壁から敷地境界線までの距離は3～4 m程度であるが、今回建物が免震建物であり、免震層が出てくることもあり、有効幅としては3メートル弱かと思うが、部分的にもう少し狭くなる場所もある。

○高田委員

歩くというよりは、眺める場所という感じか。

○設計業務委託者（森下部長）

そうである。先ほどお伝えしたとおり、高低差もあるため、なかなかここに入って楽しむというほどの空間ではない。

○高田委員

ただ、この植栽に面した1階部分に廊下があるので、ここから植栽が見えるという点は非常に良いと思う。他の病院は、割とかちっとした整然とした建物が多いので、リズムができるように様々な樹種を植えて他と区別するとよいと思う。

○吉田委員

5 ページ目の南立面図の安芸市民病院のサインについて、屋上と、袖看板のような横書きと縦書きの2か所にサインが入るということによろしいか。

○設計業務委託者（森下部長）

これも検討中であるが、現時点ではこのとおり考えている。

○吉田委員

縦書きのサインの位置について、このパースや立面図では少し分かりづらいのだが、こ

れは建物の壁についているのか。

○設計業務委託者（森下部長）

そうである。建物の壁面についており、袖看板ではない。

○吉田委員

南立面は窓ガラスだとか様々な要素によって少し窮屈な感じを受ける。北立面は、一枚の壁面にサインがあるだけで非常に読みやすいと思うが、この南壁面については、もう一つ案として、右側につけた場合のシミュレーションや検討を行ってはどうか。おそらく、屋上のサインは近くだと見えないということで、サインが2か所あるのだろう。

○設計業務委託者（森下部長）

そのとおりである。

○吉田委員

また、パースだとサインが立体文字になっている。立体文字とすると、ほとんど南側のため太陽の影響で影が出た際、サインの色にもよるが、影と同和して文字が太くなるなど読みづらくなるのではないかと心配である。まあ、サインの厚みにもよるが。

この位置からだ、壁面の右側にサインを移動しても十分読めると思う。

○設計業務委託者（森下部長）

検討させていただく。

○小菅委員

配置について、エントランスホールから入り、受付、会計というところがあるが、ここには守衛の機能は持たせているのか。防災センターとの距離が離れているので、もしエントランスホール側から侵入者が来た際はどのように対応するのか気になった。

また、売店の位置について、先ほどエントランスからアクセスしやすいようにしたと説明があったが、外来患者からすると、少し使いにくいのではないかと、ただ入院患者のためのものだとすると、この売店の位置は使い勝手がいいとも思う。

地域包括ケアシステムについては、プライベートよりも、地域に開かれているという方を重視しているのだと、何となく配置図を見て感じた。

患者さんやその家族へのカンファレンスの点で、面談室を充実させるとあるが、今のこの計画では具体的にどのような配慮がされているか。

○設計業務委託者（森下部長）

防災センターについて、ここには昼間は人がいない。夜間にのみここで管理するということである。患者さんは、昼間は正面入口、夜間は夜間入口を使用するので、夜間のみこの防災センターで管理する予定であり、防災センターと侵入者の対応は、直接の関係はないものである。

売店の位置については、そのような考えもあると思うが、外来患者にとっては待合室からあまり距離がない位置、入院患者にとっては、外来の方の前を通らず売店に直接行くことができる位置としている。この両方に配慮した中間の位置で病院と打合せをしている。

地域包括ケアシステム推進部については、正面入口に余りにも近過ぎて丸見えではないかという意見もある。プライバシーに配慮し、個室空間で相談を受けることもあるので、個室の相談室3部屋を入口すぐ横に面して設け、プライバシーを守りつつ対応できるように病院と打ち合わせをしている。

カンファレンス室や面談室の充実については、病院側からの、ご家族も含めて相談ができるスペースを多く取りたいという要望を踏まえ、図面上は小さく見えづらいが、カンファレンス室や面談室を各階1カ所から2カ所、病棟内に設けている。

○藤井委員

診療室も含め、少し狭い感じを受ける。アイデアは無いが、例えば、一階の出入口の方向や部屋の配置を少し変えれば上手くいかないか、自分なりに考えていたが、なかなか難しい。例えば、2ページ目に防災センターがあるが、その左側に通路がある。これは生化学検査室の入口となるのか。

○設計業務委託者（森下部長）

これは処置室等から上下に繋がるスタッフ用の動線の一部である。病棟等からの検体が、生化学検査室に行くルートであり、この通路は必要な動線である。

○藤井委員

どうにか入口の方向を変える等の工夫をすると、もう少し合理的にならないかと感じた。かなり入り組んでいる感じがした。

○設計業務委託者（森下部長）

確かに、廊下が多い部分があるが、スタッフの使い勝手や、コロナ等感染症対策の為に、スタッフ動線と患者動線が交わる箇所が少なくなるように配慮した結果である。そのため、裏動線というか、スタッフ動線の空間が少し多くなってしまっているのだろう。

○高田委員

屋上は一般患者も行き来できるのか。

○設計業務委託者（森下部長）

新病棟の5階部分には、現時点では上がれないようにしているが、既に、既存棟の3階部分、資料では省略してしまっているが、3階部分に屋上庭園や会議室があり、地域の方使用できるような場所となっており、その部分は今も活用されている。

○高田委員

屋上に柵が描いてあったように思うが。

○設計業務委託者（森下部長）

屋上に手すりは設けている。

○藤井委員

非常階段について、エントランスとその反対側の2か所にあるのみか。例えば、避難用の滑り台等は計画していないのか。

○設計業務委託者（森下部長）

地階及び1階は直接外に出られる避難階であり、2階は既存棟へも避難できるようになっている。3階と4階については、ご意見の通り階段2か所のみであるが、それ以外に救助袋を配置し、万が一に備えている。

○藤井委員

歩行困難な方もいると思うので、少し心配であった。

○柏尾委員

吉田委員が指摘された、サインについて。南側の縦書きのサインの壁面がカギ型になっているのは、なぜか。構造的には北も南も同じであると思うが。

○設計業務委託者（森下部長）

建築基準法の道路斜線のため、やむを得ずカギ型となっている。

○柏尾委員

了解した。カギ型であることもあり、この見え方が複雑になっている。

また、サインの照明について何か計画されているか。

○設計業務委託者（森下部長）

まだ、病院と協議はしていないが、今のグレーのサインとするのであれば、バックライトの照明を提案したい。

○角倉委員

4 ページ目の4階平面図、仮眠室の南の階段は何か。3階にはこの階段はない。

○設計業務委託者（森下部長）

5階の機械室に上がるためのメンテナンス用の階段である。

○角倉委員

では、ここから先ほどの屋上利用も関係する可能性があるということか。

○設計業務委託者（森下部長）

可能性はある。EVも屋上までは行けるが、現時点では屋上利用は考えていない。

○田中座長

他に意見がないようなので、議事(2)について簡単にまとめさせていただく。

まずは、第1回で出た意見について、可能な範囲で対応いただいたと思う。その上で、今回は4つほど意見があったように思う。

1つ目は、サインの色やデザインについて。色を有彩色にする場合は、少し注意が必要であり、デザインそのものをどうするかは引き続き検討いただきたい。

2つ目は、外装材について。ジョリパットなどについて懸念というほどではないが意見があったので、今後検討いただきたい。

3つ目は、建物内の平面計画、動線について。セキュリティーや介助者の待機場所について、全体的に狭いのではないかなどの意見があったので、再度確認いただきたい。

最後、光庭や西側樹種について。できるだけ地域の方や患者さんにとって居心地の良い場所となるよう、検討いただきたい。

以上4点である。議事(2)については以上である。

○清水課長

本日の議事は以上2件であるが、最後に「広島特別支援学校増築について」報告をさせていただきます。

○田中座長

それでは、その他「広島特別支援学校増築について」報告をお願いします。

○橋本施設整備担当課長

（その他「広島特別支援学校増築について」の説明）

○田中座長

この広島特別支援学校増築については、既に3回議論しているものであり、3回目に追加で意見があったものに対して、今回報告いただいたものである。

ただいまの説明に対して、御質問、御意見があればお願いしたい。

特にないようであるので、本日の議事及び報告については以上である。